

2015年度教師海外研修(ガーナ) 研修報告書

学校名	静岡県浜松市立細江中学校	氏名	高井 季代子
-----	--------------	----	--------

1. 現地研修に対する各自の目的 とその達成度

(特に、現地研修の経験を生かす授業実践に資することについて)

目的の一つ目は、現地で活躍する人たちの生き方を取材することであった。様々な仕事や人の生き方を知ることが、生徒自身の生き方を思い描くヒントになると思ったからだ。ガーナでは、青年海外協力隊の方々に、やりがいや苦勞、子どもたちへのメッセージなど直接伺うことができた。また、JICAの職員の方々やその他の日本人の方、ガーナの研究者や農夫などにも話を伺うことができたこともよかった。多くはビデオに収めることができたので、生の声を持ち帰ることができた。

二つ目は、未知の世界「ガーナ」のありのままを体感してくることであった。移動中、バスの車窓から見える風景や人々の生活の様子、イメージと同じだったり違ったり、想像すらできなかった事にたくさん出会うことができた。ホテルやレストランでも、現地の人に声を掛けて話げできたことも収穫だった。連絡先を交換できた人もおり、帰国後に質問をメールですることもあった。今後も、連絡を取り合いたいと思う。

2. 訪問国から学んだこと (気づいたこと、わかったこと、大切に思ったことなど)

(1) 柱1「訪問国に肯定的に出会う」という観点から

途上国を含めた幾つかの国を訪れたことがあるが、ガーナほど「人」に好感が持てた国はない。現地の青年海外協力隊の方から、ガーナには「困っていたら助け、持っていたら分け合う文化」があると伺った。例えば、誰かの葬式があると、その人のことを知らなくとも、お金が手元があればそれをもって葬式に参列する。女性が大きな荷物を持っていると、見ず知らずの人でもその荷物を持ってくれる、などである。また、日本では知らない人に挨拶をすることにためらいを感じるが、ガーナでは自然にそれができてしまう。長年、自分の心の中に構築されてきたアフリカに対しての壁が崩れていった。

さらに、女性が小さな子どもを抱えながら農作業をしたり物を売っていたりホテルの仕事をしたりしている姿をよく見た。学校、省庁、医学の分野でも女性が進出しているという。実際、学長、校長、研究員など多くの活躍する女性を見掛けた。ガーナは、女性が活躍する社会であった。

(2) 柱2「日本と訪問国とのつながりや同一性を理解する」という観点から

研修を受ける前は、日本とガーナを繋ぐものとして思いつくのはチョコレートくらいであった。実際に訪れてみると、日本の自動車や自転車がガーナ人の足になっていることが分かった。ガーナにおいて、日本に対する印象そのものはあまり強くはないようだが、トヨタ、ホンダ、スズキはよく知られている。しかも、made in Japan の品質は、ガーナにおける日本に対する信頼や高い好感度に寄与している。人と人の直接的な交流がなくても、見えないところで産業が繋がりを作っている。日本の先人が真面目にいい車を作ってきたことが、今現在のガーナと日本の友好関係の礎の一つになっていると言える。車に限らず、JICAの人的交流や技術支援の誠実な取り組みが、いい繋がりを保っている大きな要因であると感じた。

文化面で似ていると思ったことは、あいさつやお礼を大切にしていること、サッカーが好きなこと、パンが好きなこと、餅やおにぎりに似た食べ物があることなど、いくつもある。家族の繋がりは強そうなのに家族で

食事をあまり一緒にとらないことは意外で、葬式ポスターと派手な棺は何よりも驚いた。

(3) 柱3「共通の課題について共に考え・共に越える」という観点から

児童労働について話を聞くと、学校に行きたくても行けない子ばかりではないことを知った。ガーナでは教員のモチベーションが低く、指導技術も低く、教科書・教具も不足している現状がある。訪問先の先生達は、熱意のある方たちだったが、中には生徒を放っておいて授業をしない先生もいると聞いて驚いた。「学校に行くより、家で働いていた方がまだいい」という思いが生まれるのも納得だ。児童労働の問題は、メディアによって伝えられると、伝える側の意図が入りすぎたり、シンプルに伝えようとする大事なポイントを落としてしまったりすることもある。事実を伝えること、知ることは想像以上に簡単ではないことが分かった。それを知ったうえで、批判的な視点を多少もって情報を収集すること、自分に都合のいい情報ばかりを選ばないことを意識したい。支援を考える以前の問題である。

日本もガーナも反省すべき歴史を抱えている。奴隷貿易の拠点となったケープコースト城を訪れた際に、ガーナ人も自国の人々の売買の一端を担っていたことを知った。現地の人の中には奴隷貿易の歴史を知らない人もいるそうだ。歴史をねじ曲げることなく後世に伝え、歴史から謙虚に学び、耳を傾け、過ちを繰り返さない努力をしたい。全世界共通の課題である。

3. JICAの国際協力事業の「良い!と思ったところ」と「今後あるといいなと思う視点」

以前は「JICA＝青年海外協力隊」という印象が強かった。しかし、JICAの支援は多岐にわたることを知った。特に印象深い活動は、日本国内での研修である。実際ガーナを訪れると、日本を訪れたことのあるガーナ人研究者や教育関係者に会った。思い返してみると、JICAの宿泊施設でも、研修目的で訪れている外国の人を多く見掛けた。JICAが行っている国内研修、市民参加協力事業、大学との連携事業は、開発途上国における課題解決への取り組みを国内で支援している。JICA重要分野の一つである保健の担当者から伺ったお話によると、現在ガーナ人2名が日本で食育を学んでいるという。食育を気に入って、子どもだけでなく大人も成人病にならないように、食を通じた教育を意欲的に学び、広めようとしている。先進的な取り組みを実際に見てもらうことは効果的な研修方法だと思う。日本にとっても、人脈形成や国際感覚の育成といった点でプラスの効果をもたらすことだと思う。

日本の地方においても、外国からの研究員と気軽に交流できる機会があるといいと思う。

4. 訪問先ごとの「感じたこと」や「学んだこと」

※別掲

5. 印象に残る写真2点 とその解説

●写真1… [KIY_0546]

◇キャプション：“Time is money?” ガーナのお金

◇解説文：このことわざは、ガーナには馴染まない。

40年後はどうだろう。バランスよく経済発展を実現し、その恩恵が全土にいきわたることを願う。お金があることが人にとって幸せとは限らないけれど。



●写真2… [KIY_0044]

◇キャプション：The Ghanaian Sumo Wrestlers

◇解説文：初めての学校訪問での相撲交流。不安だったけれど、女の子のこの真剣な表情。観衆も大いに盛り上がった。スポーツは言葉の壁を超える。将来、ガーナ出身レスラー（行司）が出るかもしれない。



6. 来年度参加する先生へのアドバイス（持ち物、必要な準備、学びの視点、注意事項など）

- ・出発前は、学校で最も忙しい時期なので、とにかく早めの準備が大切。あれもこれもと思って準備した後の、精選作業が大変。（重量規制対策）
- ・何曜日生まれか調べておくこと。ミドルネームのような形で、現地で自己紹介をする際に使ったら、現地の人はそれを覚えてくれ、コミュニケーションのきっかけとなった。
- ・入国する際に、スーツケースの中身を全部チェックされたり、セキュリティチェックの際に、バックパックの中身を全部出させられたりと、時々厳しいチェックが入るので、要求されたら素直に見せる。
- ・会計で、おつりももらうつもりで支払っても、おつりが返ってこない場合があるので、「おつりください」というか、チップも含めた妥当な金額を渡しておくといよい。
- ・注文時に、店員がメモをミスして書いていることがあった。間違いを認めてくれなかったのが、オーダーが通る前に、一度確認するとよい。
- ・菌が強いのか、ちょっとした傷が化膿してしまうらしいので、小さな傷でもよく消毒をした。消毒液はあると安心。
- ・準備に時間がかかり過ぎ、名刺を作れなかったのが、メッセージカードを持っていき現地で手作り名刺を作ったのが役だった。
- ・飛行機内もホテル内も寒いので、ウインドブレーカーが役立った。
- ・試しに古いドライヤーを持って行って、使おうとしたら、今にも出火しそうな勢いだったので、事前に使用可能か確認していった方がいい。

- ・水はこまめにとった方がいい。
- ・とあるホテルでは、親切にして下さったホテルマンにチップを渡そうとしたら、受け取って下さらなかった（チップの習慣はない）。
- ・洗濯は、連泊ホテルの初日に手洗いすれば十分だった。捨てるのも後悔しない、着つくした洋服を持っていき捨てるのが、水と洗剤の節約になる。捨てるのに後ろめたさはあるが。
- ・食事の多くは一人前が多いので、シェアがちょうどいいと感じた。
- ・もらった資料を、飛行機の中やホテルの部屋で見直した。出発前は、学校の仕事で手一杯なので、機内で落ち着いて目を通しておき、現地で自分の目で確認するといひ。
- ・両替は、初日に200ドル～300ドルした。100ドル札のレートがいい。教材やお土産をたくさん買いたい人は、300ドルでも足りない。多くの人が追加で両替した。あまり買わなければ、200ドルでもまかなえると思う。

7. その他全般を通じての感想・意見など

- ・考えをシェアする時間が毎日あるが、学び合いができることはありがたいことだなと感じた。（10人の頭で考える。）
- ・現地では学びの材料があふれている。自分の視点、テーマを絞っていかないと、情報収集があまくなってしまふ。
- ・受講者は人それぞれ個性があるので、その個性を發揮できる雰囲気作りが大切だと思った。一人一人の長所が異質であればあるほど、チームワークの相乗効果は大きいというが、まさにその通りだと思った。さらに、さりげない気遣いや感謝の気持ちが、チームワークを向上させていた。

以上

